

2016年10月4日

各位

大阪信用金庫
理事長 樋野 征治

定例調査：第169回 景気動向調査（7～9月期）

☆足踏み状態も一部業種に明るさ・・・サービス業D I 10年ぶりプラス

☆設備投資は高水準で推移・・・「実施・予定」18.4%

☆円高による恩恵か？・・・飲食業「仕入単価の上昇」△14.1 ㊦

☆人手不足も増員は消極的・・・来春「新規採用しない」8割近く

●足踏み状態も一部業種に明るさ サービス業D I 10年ぶりプラス

総合では、売上D Iが△10.0(前回比+0.1ポイント)、収益D Iが△10.9(前回比△0.3ポイント)となり、売上D I・収益D Iともに足踏み状態となっています。業種別ではサービス業が好調で、売上D Iが+7.3(前回比+10.2ポイント)、収益D Iが+1.8(前回比+6.9ポイント)と上昇し、10年ぶりに売上D Iが、25年ぶりに収益D Iがプラスに転じました。一方、小売業と飲食業の売上D I・収益D Iが下落しており、猛暑による客足の鈍さが響いたものと思われます。結果、9-12月期の見通しは、卸売業とサービス業を除く6業種が上向くと予想しており、年末に向けた需要拡大への期待の大きさがうかがえます。

●設備投資は高水準で推移 「実施・予定」18.4%

設備投資は、総合では「実施中」が8.9%(前回比△0.8ポイント)、「予定あり」が9.5%(前回比+0.2ポイント)となり、「実施中」と「予定あり」の合計は18.4%と、依然として設備投資動向は高水準で推移しています。ただし、建設業は「実施中」が3.6%と前回調査より6.4ポイント下落した一方、「予定あり」が8.2%と2.0ポイント上昇しており、今後の受注状況を見ながら設備投資を行おうとする姿勢が感じられます。

●円高による恩恵か？ 飲食業「仕入単価の上昇」△14.1 ㊦

経営上の問題点は、総合では「売上の停滞・減少」が54.6%(前回比△1.2ポイント)と依然として一番の問題点となっています。一方、「仕入単価の上昇」は、飲食業が前回比14.1ポイント低下するなど、ほとんどの業種で前回を下回っています。円高により原油・農産品をはじめとする輸入価格が低下し、プラスの効果になったものと思われます。

●人手不足も増員は消極的 来春「新規採用しない」8割近く

来春の「新規採用」について、「昨年より増員」は7.2%、「昨年と同数」は13.9%、「昨年より減員」は1.4%と採用を考える企業は22.5%(前年22.4%)に止まる一方、「採用しない」は77.5%となり、中小企業は来春の採用に消極的です。また、経団連が示したガイドライン(紳士協定)が採用に及ぼす影響について、来春採用を予定する企業では、「影響はない」が40.9%、「わからない」が43.0%となり、今のところ影響は小さいと思われます。

調査時点：2016年9月上旬

対象期間：2016年7～9月(実績) 2016年10～12月期(見通し)

対象企業：当金庫お取引先1,767社(大阪府内、尼崎市)

回答企業数：1,402社(回答率79.3%)

調査方法：調査票郵送および聞き取り調査

本調査に関するお問い合わせは下記までお願いします

株式会社だいしん総合研究所(担当：福井)

TEL:(06)6211-2921 FAX:(06)6211-2930

E-mail:souken@osaka-shinkin.co.jp

URL:http://www.osaka-shinkin.co.jp

この街のホームドクター



大阪信用金庫